

[研究ノート]

宝萊山古墳の測量実習について

古庄浩明・瀬尾晶太・澁谷麻友子
杉浦直樹・望月菜々子・高部由夏

はじめに

駒澤大学文学部歴史学科考古学専攻では、学部2年次生より考古学実習として「実測」「測量」「写真」「情報」の講義が履修可能である。古墳測量は、「考古学実習（測量）」の一環として、担当教員の古庄浩明が平成16年度から東京都大田区の多摩川台古墳群において実施している。これまでに、平成16年度に1・2号墳、平成17年度に3・4号墳、平成18年度に5号墳、平成19年度に6・7号墳、平成20年度に8号墳の測量調査を終えており、これらの測量成果を、1・2号墳の測量図は平成18年『駒沢史学』第66号⁽¹⁾に、3・4・5号墳は平成20年同誌第71号⁽²⁾に、6・7号墳は平成21年同誌73号⁽³⁾に、8号墳は平成24年同誌77号⁽⁴⁾に掲載した。

本報告は平成21年度から平成24年度にかけて「考古学実習（測量）」として実施した宝萊山古墳の測量の成果を報告するものである。

1. 宝萊山古墳について

多摩川台古墳群については、大田区の調査報告および松谷裕子氏の報告があるのでここでは割愛したい。以下、宝萊山古墳に関する既往調査の結果をまとめておく。

宝萊山古墳は、後円部は過去の宅地造成などによりほとんど失われ、前方部は削平を免れているが変貌が見られる。平成7・8年の多摩川台公園拡張部の

公園整備事業に伴う調査で、宝来山古墳は全長97m、後円部径52m、後円部高11m、前方部幅37m、前方部高8mと推定され、また、墳丘の西側平坦面に突出部を持つことも確認されている⁽⁶⁾。墳丘構築は、多摩川によって開析された河岸段丘の最上段の舌状台地上、標高37.5m付近で緩傾斜する傾斜変換点付近の台地周囲を削り出し、その土を盛土して墳丘を成形し、丘尾を切断によって築造された前方後円墳である。また、その築成は前方部二段（削り出し一段+盛土一段）後円部三段（削り出し一段+盛土二段）と考えられている。築造年代については、宝来山古墳は定型化した前期前方後円墳として関東では最古の部類に属するものと考え、宝来山古墳の倣製四獣鏡と粘土槨の時期ともに4世紀以降なので、出土土器群は宝来山古墳の築造とその後の後円部と前方部への埋葬と祭祀期間を考慮すると、少なくとも4世紀前半代と考えられている。ただし、古庄浩明は、墳丘の形態・出土した土器などから3世紀に遡る可能性を指摘している⁽⁷⁾。

2. 測量調査

宝来山の測量調査は平成21年度から平成24年度の2月の約3週間を使って、4年間をかけて行った。測量図は、現場ではスケール50分の1、20cmコンターで作図した。

平成21年度は、原点とした大田区水準点No64の標高が、平成16年度の水準点結果一覧表ではTP=23.514mに変更されていたことを知らず、それ以前の資料に掲載されていた標高TP=23.532mを基準としたため、測量結果との間に誤差が生じてしまい、翌年、再度測量し直すこととした。

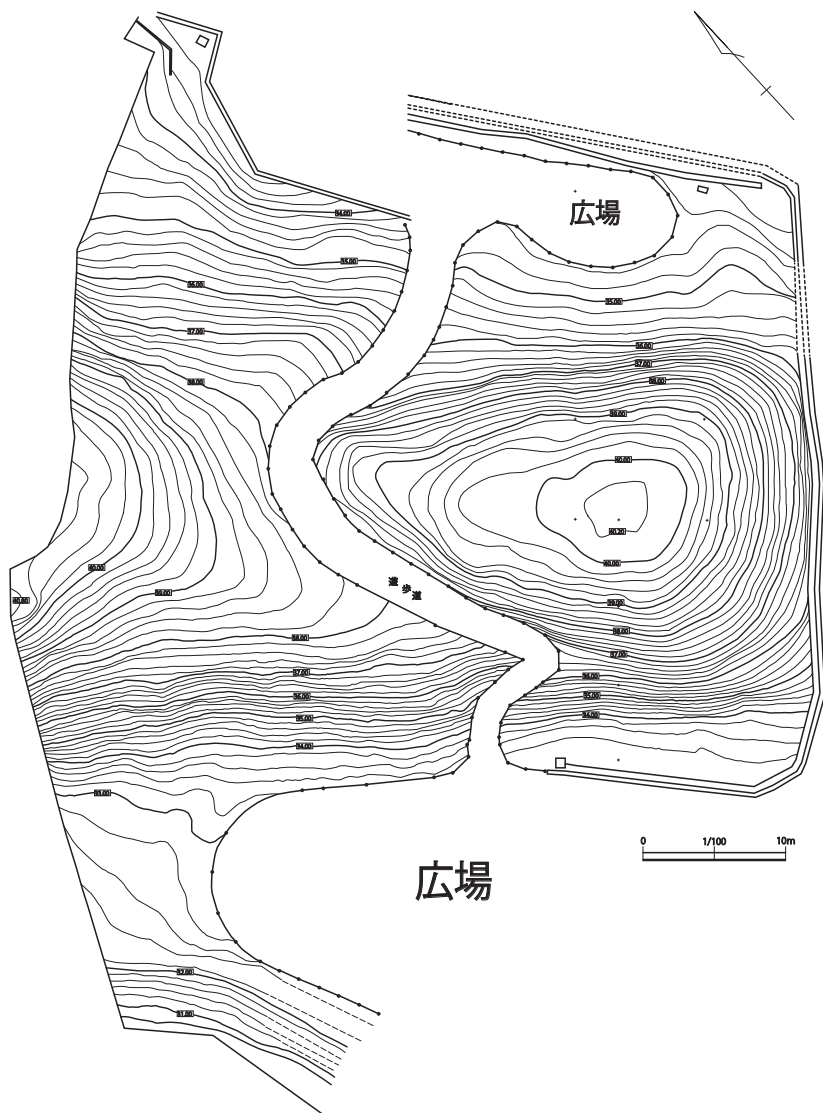
平成22年度には前方部の測量をおえ、平成23年度と平成24年度の2年間をかけて後円部を測量した（第1図）。

参加者は以下の通りである。

担当教員 古庄浩明（非常勤講師）

平成21年度2009

安食多嘉子・浅野美里・道家達也・小林研・藤本佑加・山口梢・石津孝晃・萩



第1図 宝莱山古墳測量図

野谷勇司・赤堀祐斗・永山はるか・石川千尋・野島智・瀬尾晶太

平成22年度2010

石原俊治・池田隆人・水野華菜・松尾恵・石岡有希・竹川詩織・野崎恵美・武熊野の香・前田雄樹

平成23年度2011

山崎裕晃・富岡弥生・鈴木恒成・加藤啓太・大澤慧祐・稲葉孟・佐藤拓也

平成24年度2012

阿部光月・澁谷麻友子・生出美奈・藤澤瞳・杉浦直樹・HUANG KATHLEEN・江良小春・高部由夏・望月菜々子・小泉香代子・村上絢香

3. おわりに

今回で9度目となる古墳測量実習で、4年に渡った宝萊山古墳の測量を終えた。宝萊山古墳の25cmのコンター図は測量されていたが、現在主流である20cmのコンター図はなかった。平成24年度の調査により宝萊山古墳の20cmのコンターを完成させられた。このことにより、他の地域の古墳との比較検討が容易になったと考えられる。また、実際の古墳を測量して図を作成し、これを報告できたことは参加した学生の自信になった。

末筆となったが、宝萊山古墳を測量するにあたり、ご指導・ご鞭撻いただいた、大田区教育委員会、トータルステーションなど機材を置く場所を貸していただくなど、温かい配慮をしていただいた多摩川台公園管理事務室の皆さん、その他、ご尽力いただいた方々に謝辞を表す。

付記. 考古学実習（測量）をおえて

古庄浩明

平成15年度から私が担当させていただいた考古学実習（測量）は、カリキュラム変更のため平成25年度をもって終了した（平成25年度は1号墳を再測量した）。平成16年度からはじめた多摩川台古墳の測量も、平成24年度の宝萊山古墳の測量調査をもって、多摩川台公園内の許可された古墳の測量を終了するこ

とができた。

今回の測量によって、最新のデータを提供し、墳形を一層詳しく知ることができるようになった。その上で、剣菱型前方後円墳⁽⁸⁾や、前方後円墳の関東への伝播時期の再検討について考察をおこなうことができた。また、本測量実習は新聞や雑誌にも取り上げられ、考古学実習として一定の成果を残すことができた⁽⁹⁾とおもう。関東の古墳研究は長い歴史を持ち、研究し尽くされたと思われるが、まだまだ研究の余地が多く残されていることを痛感させられた。

本講座の終了にあたり、大田区教育委員会・調布まちなみ維持課・お世話になった方々にお礼を申し上げる。そして、なによりも、2月、吹きさらし場所で、冬の寒い中、木枯らしや雪にもめげず測量をしてくれた学生たちにお礼を申し上げます。

註

- (1) 古庄浩明・松谷裕子 2006 「多摩川台1・2号墳の測量実習について」『駒沢史学』第66号 駒沢史学会
- (2) 古庄浩明・長尾宗史・鯨井美咲 2008 「多摩川台3・4・5号墳の測量実習について」『駒沢史学』第71号 駒沢史学会
- (3) 岸本泰緒子・松下賢 2009 「多摩川台6・7号墳の測量実習について」『駒沢史学』第73号 駒沢史学会
- (4) 有坂恭祐・金橋壘・高橋かおり・蓮見祐香・村木真由 2012 「多摩川台8号墳の測量について」『駒沢史学』77号 駒沢史学会
- (5) 松谷裕子 2006「多摩川台古墳群について」『駒沢史学』第66号 駒沢史学会
- ・大田区教育委員会 1989 『多摩川台古墳群発掘調査報告書Ⅰ—第3・4・5・6号墳の範囲調査—』 大田区教育委員会
- ・大田区教育委員会 1993 『多摩川台古墳群発掘調査報告書Ⅱ—第1・2・7・8・9号墳の範囲調査—』 大田区教育委員会
- ・東京都指定史跡宝莱山古墳調査会 1998 『東京都指定史跡宝莱山古墳：大田区立多摩川台公園拡張部公園整備に伴う範囲確認調査報告書』 東京都指定史跡宝莱山古墳発掘調査団
- ・大田区教育委員会 2005 『久原小学校内遺跡・桐里遺跡・宝莱山古墳・観音塚古墳・大森堀ノ内遺跡発掘調査報告』 東京都大田区立郷土資料館
- ・古庄浩明・松谷裕子 2006 「多摩川台1・2号墳の測量実習について」『駒沢史学』

第66号 駒沢史学会

- (6) ・東京都指定史跡宝萊山古墳調査会 1998 『東京都指定史跡宝萊山古墳：大田区立多摩川台公園拡張部公園整備に伴う範囲確認調査報告書』 東京都指定史跡宝萊山古墳発掘調査団
- (7) 古庄浩明2008「(付)宝萊山古墳出土の土器について」『駒沢史学』第71号 駒沢史学会
- (8) 古庄浩明2006「いわゆる剣菱形前方後円墳について」『駒沢史学』第66号 駒沢史学会
- (9) 古庄浩明2008「(付)宝萊山古墳出土の土器について」『駒沢史学』第71号 駒沢史学会
- (10) 平成23年3月9日読売新聞 「前方後円墳 3世紀関東にも」
- (11) 清岡央2011「古墳時代の東国は畿内より本当に遅れていたのか？」『歴史REAL』vol. 3 洋泉社